祷りに囲まれる心強さ

奨励	兼松 豊〔かねまつ・ゆたか〕
奨励者紹介	日本キリスト教団京都上賀茂教会牧師

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」

（ヨハネによる福音書　14章１―４節）

叫びが届く

「祷ってください、共に祷ってください」というメールが届いていました。最近は夜の９時ごろには寝てしまいます。その夜もそろそろと思いながらメールをチェックしたのです。

アスペルガー症候群はご存じでしょう。その苦しみの生活のなか、本人が傷つき、仕事を失い、家庭が崩壊し、親と子の関係も厳しいものとなり、脱法ハーブに手をそめはまってゆき、施設に収容され、実家に戻っても厳しく、と大変な状況で日々暮らす教会の仲間家族がいらっしゃいます。

「教会でお世話になっている〇〇です。祷ってください。とても厳しい局面です。神様を呼んでいます」とメッセージが入っていたのです。メールを読んですぐにその方に電話を入れました。話し始めて、すぐにお母様が「すみません、本人がうろうろしています」と言って電話が切れました。しばらくしてまたメールが届きました。「子どもは、入院で先延ばしされた就職がその後うまくいかず、脱法ハーブを手に入れ、そのハーブで気をまぎらわしています。それを今日は取り上げたので・・・・」とメールが続きました。

「祷ります、ご本人の為に、ご家族の為に」と返信をし、祷りました。それからドキドキしてしばらく寝付くことができませんでした。

「祷ってくださり、ありがとうございます。よろしく御願いいたします。しかし、週末で厚生施設のボランティアの方と連絡がとれないのです。『祷るのでどうぞ心丈夫でいてください』というメールにどれだけ励まされたか。なんとか大きな山を凌ぎきりました。脱法ハーブとの戦いが身にしみます。神様に感謝」。

再び叫びが届く

次のメールはこうでした。

「沈黙の神って本当なんですね。祷っても祷っても、むなしさだけが残るのです。不安で、不安で、息子が間違いを起こさないか、心配で」と、信仰の厚い方ですが、心の叫びというのか思わず語る言葉に、私たちのできることの少なさを覚えます。

今日、ここにおられる方々は人から相談を受けたり、答えたり、学生の方も将来は、人から話を聞く立場になる方が多いでしょう。ときには正直、空しさを覚えることもあるでしょう。

次のメールです。「ありがとうございます、息子は少し落ち着いたようです」と届きました。返信は「一安心ですね。神様に祷る事の大切さと喜びは信仰を与えられ、感謝を知った私たちの命の糧です。ご家族の為に祷ります。お体、心も大切に」。

アスペルガー症候群、という病名の診断を受けても、それだけでは何も解決はされず、本人もお母様もご家族みんなが消耗していくのです。私たちは、ただただ声をかけ、祷るだけで、するとお母様からまたメールがくるのです。「神様につながる祷りに囲まれる心強さ、何にも勝る恵みです、本当にありがとうございます」という返信メールです。

どん底に落とされ、また少し落ち着き、そして、またハーブに走り、少し落ち着き、祷りの時を見つけ、少し落ち着きの繰り返しです。

先ほども申しましたが、今日ここにおられる方々は、きっと人から相談を受けたり、今後そのような立場になられる方が多いと考えられますが、時として相談を受けても、答えの見いだせないことがあることを体験なさっているでしょう。このテーマでお話をするのを実は悩みました。あるご家族の実際の話ですから。でも、今期のこのチャペル・アワーのテーマが「互いに重荷を担いなさい。」とお聞きし、主が私たちの重荷を背負ってくださることに感謝しながら、私たちが他者の、隣り人の重荷を背負いながら共に生きていく者として、主が共にいてくださるのです。ご家族の方にも相談しました。「礼拝で共に、祷りに加えてくださるのは喜びです、どうぞお話しください」とのことでした。

祷りに支えられ

ヨハネによる福音書14章１―４節を覚えるのです。この聖書箇所は告別のときに読まれることが多いですが、辛さや苦しみのなか、最終的には主は私たちを見捨てることなく、私たちを抱きしめてくださるのです。信仰を得る、ということは信じ、すべてをあずけ、喜びを感じることであるのです。皆さま、最近、祝福を覚えたことがございますか。祝福を与えられたとお感じになったことがございますか。祝福を与えたことがございますか。祝福とは他者の幸せを祝うことです。祝福とは他者の幸せを祷ることです。キリスト教では、神からたまわる幸せのことです、と昔ここで教わったことを思い出します。

日本キリスト教団では祝福の祷り、祝祷を捧げられるのは聖職者に限られていると考えている人びと（教職・信徒）が多くいます。今そのことを問題視するつもりはありません。のちに祝祷を捧げさせていただきますが、祝福と祝祷は厳密には違うでしょう。お隣の学舎（まなび）やで、その違いも学ぶ場があるでしょう。しかし、実際に祝福を得ることは、どのぐらいあるでしょうか、祝福を感じることがあるでしょうか、と苦しいときに問いかけてしまう私たちです。それでも主は共にいてくださるのです。すべてを準備してくださっているのです。主からたまわる幸せを覚えるのです。他者の幸せを願うことです。他者の幸せを祷ることです。　今日、私がお話をさせていただいたご家族は、その苦しみのなかでも主からの祝福を信じ、教会の仲間と祷ることに喜びを覚え、祝福を感謝するのです。今こそ、日々私たちは祝福を得ている喜びに感謝する事の大切さ、時には難しさ、そして喜びを学ぶのです。

2012年11月７日　今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録